

いつでも、どこでも、だれにでも
生命育む生涯学習を！
「訪問カレッジ@希林館」の取組

平成30年6月14日
特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所
理事長 飯野 順子
理事 下川 和洋

生きることは、学ぶこと。
学ぶことは、生きる喜び。
生涯にわたって、学ぶ続ける喜びを！
いつでも、どこでも、だれにでも、生涯学習を！

「訪問カレッジ@希林館」が目指してきたことは、重い障害のある方々の生涯にわたり学び続けたいという夢や願いに応える、学びの機会と場を創ることです。そのことによって、生きがいと喜びがあり、生き生きと輝く地域生活を可能にすることです。

- 人と人が紡ぎ合う力の豊かさ
- 新しい価値観の展示場

東京学芸大学 加瀬 進教授

訪問カレッジとは・・

- 1 目的: 学校卒業後、医療的ケアが必要など重い障害のために、通所施設等の毎日の利用が難しい方々の自宅等へ、学習支援員を派遣して、生涯学習を支援する。特別支援学校の訪問教育がモデルである。
- 2 経過
平成19年 「地域ケアさぽーと研究所」NPO法人化
平成24年 「訪問カレッジ@希林館」の活動開始
- 3 活動開始の理由(生涯学習のニーズ)
 - (1) 医療的ケアが必要のために、「生活介護」に入所できない。看護師がいない、入所基準にない。規則で対象外としている等の理由により、在宅生活を余儀なくされている。
 - (2) 入所後、医療的ケアが必要となり、退所を余儀なくされた。
 - (3) 一人一人のニーズに応える学びの場が皆無である。
 - (4) 在宅生活をヘルパーや訪問看護師等が支えているが、身体介護や家事援助は、家族支援である。本人主体の訪問系のサービスがない。※参照 居宅訪問型児童発達支援の創設

生涯学習のニーズ①

医療的ケアの必要な方々の保護者の言葉

- 通所日数を分け合っている。各地域で医療的ケアに対応できる施設活用型の通所施設の整備をしてほしい。 ※施設活用型 29年度・18 30年度・21
- 来年度は通所日数を減らされる予定。親は還暦を過ぎて介護負担が大きくなる。年々通所日数が減り、生活リズムが乱れ、維持してきたことが崩れ、体調に不安を感じるようになった。親が年をとるごとに生活が厳しくなった。
- 通所バスの全送迎がかなわず自主送迎もあり、70歳を越えると運転が怖くて不安がある。リズムある生活が何より本人の心身に良いと思う。

京都重症心身障害児(者)を守る会報告書(29. 9)から

生涯学習のニーズ②

生活介護事業所に通わせている保護者の言葉

- ①親がしなければならぬ子どもの介護を施設の職員に託しているので感謝している。親としては有り難いが、本人にとって通所施設は楽しいのだろうか？「生活介護」の施設だから介護は良いけど、本人主体の日中活動になっていない。
- ②地域活用型の施設に通っている。同じ施設の他のグループは、外出など活動があるけれど、重症児グループというだけで、お風呂かDVDを見ながらのリラクゼーションタイム、通所施設での過ごし方がいつもリラクゼーションタイムで、どんどん子どもの表情が乏しくなっていくのが悲しい。

生涯学習のニーズ③

(1) 継続して外の社会との関わりが欲しい。

加齢とともに摂食・嚥下機能障害が強くなり、誤嚥性肺炎を起こすようになったため経管栄養になった。対応できないとして、退所を求められた

(2) 在宅生活や病院や施設入所の場合、「日中活動が少ないので関わり手が欲しい。」

学校教育との関わりがなくなると、「社会から隔離され孤立している感じになった」、「卒業後もこれまでと同様に訪問してくれるようなサービスがあるといい」と声が上がっている

(3) 「卒業後も生涯学習の場が欲しい」

① 地域生活の充実のためには、本人の生きがい・好きなことややりたいことなどへの参加・活動の場が必要である。

② 「生活介護事業所にも通っているけれど、生活の介護としての援助はあるが、短時間でも良いから学校時代のように本人が集中して意欲的、主体的に活動する学習のような場が欲しかった」との話もでている。

生涯学習のニーズ④

山本利恵さん

私は一昨年肺炎になり、気管切開をしました。それで声を失いました。絶望のどん底に落ちてしまいました。その時、元担任の先生から声をかけてもらって、訪問カレッジに入りました

昭和病院で気管切開の手術を受け2週間で入院しました。手術が終わり、声を失ったことを知り、なぜ、分離手術にしたのかと責められ、それから「死にたい 死にたい」と訴えるようになりました。泣いても声が出ないのも、見ていて心が痛みました。身体が不自由でも私には口がある、口を武器にして生きていくんだ、と口癖のように話していましたので、声を失ったことが、どんなに辛かったことか……。本人しかその辛さは分かりません。おしゃべりが好きで、冗談を言っては、笑わせていたのに…。私ももう一度声を聞きたいと思うことがあります。前のように会話を楽しみたいです。救急車で東大和療育センターに搬送され、血液検査をしている時、状態が悪いと感じたのか、「ヤバイ」と言ったのが最後の声でした。

山本由利子(母)

山本利恵様「私のこころの前文」 理事長 飯野順子

- あなたの心の叫びは、人を動かしました。あなたの声が聞こえて、「訪問カレッジ」は、「この人のために創る！！」と、心が揺さぶられ、チャレンジ・スピリットが湧き上がりました。あなたに、私たちNPO法人のメンバーは、背中を押してもらいました。飛び立つ勇気と飛び続ける使命をもらいました。あなたには、言葉があります。
- あなたの心の底から出てくる言葉は、珠玉のように輝いています。ここに綴られたあなたの言葉の数々は、また、新たに人を動かすことでしょう。
- あなたのカレッジ・ライフは、「家庭でできる余暇の過ごし方を教えてください。また、身体のケアも同時に行ってください。iPadを使ってのゲームや情報など色々勉強させてもらっています。普段は身体がきつくて辛いのですが、訪問の時間は楽しくて、痛みを忘れて夢中になってしまいます」とのこと
「学ぶことは生きる喜び！！」と、体現しています。
- あなたが、夢に向かい、「訪問カレッジ」の理念を、一步一步実現させていることに、敬意を表します。

「訪問カレッジ@希林館」の現状

30. 4現在

- 1 在學生 30年度 15名(平成30年度入学者 4名)
気管切開:10名 人工呼吸器:9名 吸引:11名
酸素療法:7名 経鼻経管栄養:7名 胃ろう:3名 IVH:1名
人工肛門:2名
※退学者とその理由 死亡:5名 施設入所:1名 転居
- 2 訪問先 家庭:11名 病院:2名 入所施設:2名
- 3 学習内容
 - ①体の取り組み(マッサージ、体操、)
 - ②音楽・音楽鑑賞、VOCAやiPadを使った音楽
 - ③意思伝達装置(レッツチャット・マイトビーなど)の活用、
 - ④読み聞かせ ⑤美術制作 ⑥俳句づくり ⑦英語
 - ⑧創作(物づくり)
- 4 週1回 前期・後期(8月と3月は休業月) 授業料 1万円
- 5 学習支援員(元特別支援学校教員)15名 2か月に1回会合
1回につき3000円の支払い(交通費無し)

「訪問カレッジ」の目指していること

- 「訪問カレッジ」は、「余暇活動」では、ありません。
- かけがえのない人生のかけがえのない「時」を、学びたいことを学ぶ「時」とすることがモットーです。
- 「学び」とは、その人の存在を創ることです。
- 「いのちが危ない状況だったが、退院してからは元気」「骨盤骨折で入院したが、体位変換も困難」「行きたびにできることが限られてくる」「冬になるので、何回授業ができるか」等々、打ち合わせ会では、小さないのちの灯を、懸命に点しながら、学びに向き合っている姿が報告されています。
- 毎年、亡くなる方がいます。「ターミナル」の方もいました。時間は短いのですが、学習支援員の方が、本人に寄り添い、信頼されて、無くてはならない関係性を築いていたことに、訪問カレッジの意義があると思っています。支援とは「存在を支える」ことです。

「訪問カレッジ@希林館」の「理念」は

- ①「訪問カレッジ」のやりがいは、「人間は誰でも、無限の可能性を持っているものであり、自分をより豊かに成長させ、拡大し、変革していきたいという願いをもっているものである。また、誰でもそういう力を持っているものである」(斎藤喜博)ということの重要性を実感し、確信したことです。
- ②この子らはどんなに重い障害をもっている、だれととりかえることもできない個性的な自己実現をしているものなのである。～略～私たちのねがいは、重症な障害をもったこの子たちも、立派な生産者であるということを認めあえる社会をつくろうということである。「この子らに世の光を」あててやろうというあわれみの政策を求めているのではなく、この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよみがきをかけて輝かそうというのである。
「この子らを世の光に」である。

糸賀一雄 「福祉の思想」 昭43



【まとめ】訪問カレッジの意義と役割

1 医療的ケアの必要な方の心豊かな人生への支援

- ①生命を育み、生きる力を強める。
- ②日常生活の空間を、知的刺激のある学びの環境へ整え、生活の質を高める。
- ③家族以外の人とのつながりを広げる。
- ④本人主体の活動を創出する。

2 家族の方々への支援

- ①活動への家族からの側面的・主体的・積極的支援がある。
- ②家族の孤立化を防ぐ～話し相手・心理的な支えを行う。
- ③喜びを分かち合い、アイデアを出し合うなどの関係性を築ける。

3 地域社会への発信

- ①生命を尊重し、生命の価値を伝える。

キーパーソンは学習支援員・そのやりがい 宍戸芳子

●工夫点

- ・月に一度の訪問なので、一回で完結するような学習内容を計画し、実践している。
- ・本人の作品や写真など、記録を大切にしている。

●訪問カレッジの意義(山本さんの場合)

- ・身体への取り組み(静的弛緩誘導法によるリラクゼーション)
- ・本人と家族への支援→生活上の困難を解消するための情報を提供(コミュニケーション機器の操作・サービス利用等)
- ・学ぶ機会の提供→関心ある事を、狭く、深く学ぶ(歴史・創作)
- ・「呼吸器をつけて生きていく」生活の意義を見出す。
- ・学ぶことを通して、自分らしい生き方を言葉と文字に表現する
- ・在宅生活に「外の風」を送る。(ニュースを通して社会の出来事を一緒に考える。)
- ・希望や願望を行動に移せるように励ます。(本人が思っている「壁」を乗り越える方法を、一緒に考える。)

学習内容&プログラム

①教科型プログラム ②自立活動型プログラム

14:00～身体への取り組み
(静的弛緩誘導法)

14:20～音楽 (年に数回)

14:40～学習 (約1時間)

- ①伝の心の操作と創作
- ②文章の書き方や作品鑑賞
- ③情報 最近のニュース
新聞の投書、川柳、社説
- ④こころとからだ (精神保健関係のコラム)

15:40～身体への取り組み
(静的弛緩誘導法)

・はじまりの会

・季節の話

・はじまりの歌

・身体への取り組み

※うつぶせになって

・スイッチ・iPad・絵

・五感を生かした活動

・おわりの会

なぜ、カレッジ(大学)なのか

- 「特別支援学校には、大学部は無いの?」「大学で勉強したい!」「大学部をつくって下さい」と校長先生に手紙を書いたAさん。未就学でしたが、50歳時に小6に就学しました。60歳の還暦のお祝いを盛大にしてもらったり、今、生き生きと勉強しています。
(東部療育センター入所者)
- カレッジには、カリキュラムがあり、系統的・継続的に学ぶことができる仕組みであること。
 - ①教科などを中心としたカリキュラム
 - ②自立活動を中心としたカリキュラム
- 特別支援学校との連続性を重視し、一人一人の学びのニーズを把握して学習プログラムを作成している。(学習支援員の腕の見せ所)

訪問カレッジの活動を通して分かったこと

- ①何歳になっても、緩やかではあるが、成長・発達を続けているということ。
- ②授業が始まると、学校時代に蓄積した力を発揮し、顔が輝き、笑顔一杯になり、「学ぶことは生きる喜び」と体現している。
- ③一週間に一度の訪問であっても、その日を心待ちにし、生活リズムを整えている。(回数だけでない)
- ④筋緊張や拘縮を予防する、身体が取組が最も必要なことである。(適切な学習プログラムの設定)
- ⑤年間を通じて、体調の変化がある。生命と向き合い、その力を精一杯できる「時」は、かけがえのない時間である。
- ⑥学習支援員にとっても、生き生きした活動の場であり、生涯学習の機会となっている。(ひろがり・つながり)

「訪問カレッジ」の学習支援員の方々から・・・

卒業後に向けて、どんな力を身につけたら良いか

- (1) 周囲の大人が、児童生徒の力を限定しない。
 - 「うちの子は、これが苦手」(事柄の限定)(場所の限定)
 - 「〇〇先生でなければ、持っている力を出せない(人の限定)
 - 「障害が重いから、どうせ、わからないだろう」(能力の限定)
- (2) 一人ひとりの好みを育てる。夢や願いを大切に！
 - ・好きなことを、一つでも多く増やす。
 - ・できること(得意分野)があること。
- (3) コミュニケーション力(人と接する力・人と関わる力)をつける
 - ・誰からの働きかけも受け止めたり、受け容れることができる。
 - ・楽しそうな姿は、関わる人を和ませている。
 - ・可愛がられること。
- (4) 身体づくり・健康づくり
 - ・からだの持ち主は、児童生徒、「動作＝意図→努力→身体運動」の考えで取り組む。
 - ・自分の体や健康は、その子どもなりに分かっていること

生涯学習の成果① 求められていることは～一人一人にあった豊かな活動

- 創作の時間は、リラックスして自由に動く手を使い、たくさんの作品が仕上がりました。工程では、材料の説明や素材の感触や匂いなども楽しみながら作業しています。温かい、冷たい、重い、ふわふわ、ねばねばなど初めての感触もたくさんありました。作品が一つ仕上がるたび、満足そうな笑顔と、次への期待が表情でわかります。また、友だちや訪問看護師、ヘルパーさんに作品をほめられてと、とても嬉しそうにしています。学習時の集中力とエネルギーには驚いています。
- 本の読み聞かせでは、言葉の面白さや新しい「学び」もたくさんあり、授業のエンディングとしてゆったりとした時間を過ごし、創作の時間とはまた違った表情を見せてくれます。
- 今、息子にとって訪問カレッジは生活の一部となり、元気に授業を受けることが目標になりました。そして、新しいことへの興味、チャレンジは、「生きる力」となっています。

(保護者の感想から)

生涯学習の成果② 本人支援は、家族支援となる 本人主体の活動を！

- 毎日点滴が必要で、外出がままならない中、学習支援員の先生方の授業を楽しみにしています。血圧や水分量のコントロールのための入院が増え、通所したり、リハビリを受けたりする機会がめっきり減り、身体のかたさや変形の進行が気になっています。(ターミナルのケース)
- 「からだ」の取り組みの後には、身体がとても楽になるようで、その日は一日中機嫌良く過ごせます。
- 私が抱き上げることが難しくなってきたので、抱っこで身体を起こしてもらうことで、排痰もスムーズになり、視界も広がりますし、色々な姿勢をとり続けることができとても助かっています。
- 最近覚醒している時間が増えてきたので、「楽しいことをたくさんしよう」と考えて下さっている先生方に応えて、笑顔で勉強できる日も近いのではと今後は楽しみます。

「訪問カレッジ」の運営

1 入学までの流れ

入学の申し出→面談→学習支援員とのマッチング

2 運営資金

①5名の外部専門家の謝金1時間8千円のうち、2千円がNPO法人の収入となる。約100万円を学習支援員の謝金に充当している。

②賛助会員（個人）一口3千円 63名
（団体）一口1万円 4団体

③寄付金 「障害の重い子どもの授業づくり1～7」 ジアース
教育新社 執筆者印税等

④現在、補助金は受けていない。

3 今後の課題

①スクーリングの開始

②新たな仕組みの確立と生涯学習ネットワークのダイナミックな展開（資料1）



NPO地域ケアさぽーと研究所の活動

1 重症心身障害児・者への支援事業

①訪問・福祉サービス事業「訪問カレッジ@希林館」

2 重症心身障害児・者に質の高いサービスを提供する支援者の育成に関する事業

①「みよ子さんのハッピークッキング」

・形態別調理の理論と技術を身につける講座

3 重症心身障害児・者の支援に関わる人材の開発事業

②「重症児者のたんの吸引等医療的ケア支援者養成研修業
（「特定の者対象第3号研修」平成24年研修事業所登録）

・たんの吸引等医療的ケアを支援できる介護職等を育成

③「地域生活の医療的ケアを考えるフォーラム」

・医療的ケアに関する社会啓発を目的にした会を開催

4 専門性の高い外部専門家の派遣（東京都）

①特別支援学校の自立活動に関する指導・助言 5名

スクーリングで取り上げたいこと

生涯学習ニーズ調査：学びたいこと・学ばせたいことから

今後設けたい講座 一覧	人数
①ミュージック・セラピー～音楽を楽しむ	54
②健康・体づくり～からだを緩め、緊張を解く	49
③アロマ・セラピー	45
④読書活動～読み聞かせ等を通して、本に親しむ	41
⑤スヌーズレン～感覚を磨く	38
⑥コミュニケーション支援機器(iPad等)を操作する	32
⑦ボウリング・ゲーム等	29
⑧スイーツづくり～ティータイムを楽しむ	27
⑨物づくり～絵画・紙粘土などの制作活動をする。	23
⑩地理・歴史～映像で世界を旅する～世界の文化・歴史に親しむ	23
⑪文学～創作活動～詩作・作曲・お話づくりにチャレンジする	20
⑫福祉～生活に関する身近な福祉を学び、生活に生かす	18

現在の試みと今後の課題 生涯学習を拡充するために

- 訪問カレッジ@希林館（NPO法人）小平市
 - ・開始 2012年(平24)年9月 ・年間授業料 1万円
 - ・学習支援員を配置 保険をかけている。
 - ひまわりHome College(NPO法人) 新宿区
 - ・開始 2013(平25)年4月
 - ・年会費 3,000円 受講料 1,500円/1回
 - ・講師代 1,000円/1回 交通費実費
 - ・親の会が運営している。
 - 訪問大学「おおきなき」 大田区
 - ・4年制 ・修了証あり ・講師を確保して実施している。
 - ・入学金(2,000円) 学費(3,000円/年) 授業料(1,500円)
- 【運営上の課題】**
- ・一定の定期的な収入がないことによって、見通しが持てないため、人材の確保が難しい。人材の募集も積極的にできない。

「いるか訪問」(訪問介護事業所NPO法人かすみ草に所属 ※元教員がホームヘルパーの資格をとり、家庭に訪問。教材費500円をとって、学習支援している

- 利用者の多くは呼吸器等の医療的ケアが必要であり、在学中までは学校から訪問教育が保障され、一人ひとりのニーズに合わせた活動の時間が確保されているが、卒業後はその時間や場がなくなる。地域の通所施設に通えた場合も、医療的ケアが必要なため、移動が大変だったり、保護者付き添いを求められたり、本人や家族にとって負担が大きいことが多い。
- また、体調が不安定になったり体力が低下したりして通所施設を休むことが続いた場合、通所施設からの訪問療育制度がないため、外部とのつながりが閉ざされてしまう。
- ぜひ、生涯学習の観点から、成人への訪問活動が各地で行えるようにしてほしいと思う (居宅訪問型児童発達支援の創設)

「重度障害者(18歳以上)の生涯学習・社会教育の現状に関する調査」 東京都区市町村生涯学習・社会教育主管課対象
62カ所(回答40カ所) 平成29年5月

- | | | |
|-----------------|----|-----------|
| ①障害のある方の社会教育の講座 | 有り | 21カ所(50%) |
| ②医療的ケアの必要な方等の参加 | 有り | 1カ所 |
| ③家庭への訪問の仕組みの有無 | 有り | 2カ所 |

④課題

- ・利用者の高齢化と指導者、協力者の確保が困難
- ・予算(財源)の確保 場所の確保(施設の老朽化)
- ・運営スタッフの確保と人材育成
- ・障害についての研修の必要性
- ・10代~60代等年齢差など、多様なニーズへの的確な対応策の必要性
- ・公民館との連携の促進

※障害のある方に関することは、障害福祉課への回答が多い

。

検討事項:いつでも、どこでも、だれにでもを可能に!

- ①医療的ケアの必要な児童生徒の卒業後を予測した実態調査を行うこと特に訪問教育(在宅・病院・施設の場合)について～知的障害と比べて人数が少ないので、看過される。対応が後回しになる。
- ②特別支援学校が卒業後3年間は、学校から週1回程度の訪問ができる仕組みをつくる。訪問教育の場合、週3回で、時間数が少ない。(そのために人材を確保をする)
- ③生活介護施設から、家庭に訪問できる仕組みを創る。在宅医療が推進されている現在、訪問系の福祉サービスを創設する。
- ④一人一人にいていねいな指導ができる人材を確保し、派遣できるようにする。人材の確保のために、拠点に人材バンクを置く。
- ⑤卒業後の生活介護施設は、医療ニーズについて理解が不足している。通所できる場所の確保と適切なプログラムを用意する。
- ⑥施設入所している場合の日中活動を、ライフステージに応じて積極的に行うこと。
- ⑦在家庭であっても、親子ともにいる居場所(所属感)をつくる。
(学生証)

「生命の輝く教育」を目指した。卒業後も、その精神を！


《生命とは・・・》 日野原重明 「10歳のきみへ」

いのちとは、人間に与えられた時間でもあること、そのいのちをどう使うかが大切であること、どんないのちも、かけがえがないこと、だから、どんないのちも、粗末に扱ってはいけないこと

《求められていること》

- ◆生命の重さは、時間の重さである。
- ◆生きるとは、時間を紡ぐことである。
- ◆子どもたちの「時間」のその一瞬一瞬を、意欲・喜び・期待・感動などで包み込むことで、生命が輝く。
- ◆子どもたちのかけがえのない貴重な時間を、空白にしないようにする。
- ◆授業は、子どもの存在を創る。「できる自分」(自分の価値)に気づく授業を

※福島智東大教授 「相模原事件」は、「生物学的殺人」「実存的殺人」(人間の尊厳や生きる権利と存在価値そのものの抹殺)

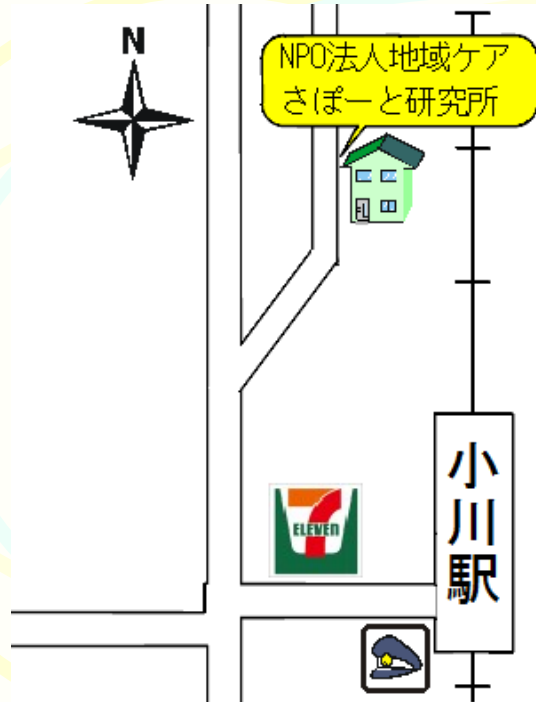


【補遺】入所施設では・・・秋津療育園の理事長として・・・ いつでも、どこでも、だれにでも 生涯学習を！

- 平成29年4月7日、文部科学大臣が、「特別支援教育の生涯学習化に向けて」というメッセージを発信。その趣旨は、「障害のある方々がそれぞれのライフステージで夢と希望をもって生きていけるよう、生涯にわたる学習活動の充実を目指すために、関係部局の連携を図ること」とするものです。
- この度、長年の念願でありました児者一貫制度に関して、「医療型障害児入所施設等と療養介護の両方の指定を同時に受ける、現行のみなし規定を恒久化する」となりました。ただし、入所者の年齢や状態に応じた適切な日中活動を提供していくことが前提です。
- 本園におきましても、これまで以上に、一人一人の尊厳を尊重したQOLの高い日中活動の創造によって、一人一人の自己実現を図ることを指針とし、尽力したいと思っています。
- 70歳の入所者と出会って、入所施設でこそ、生涯学習の視点で、生活の再構築を！



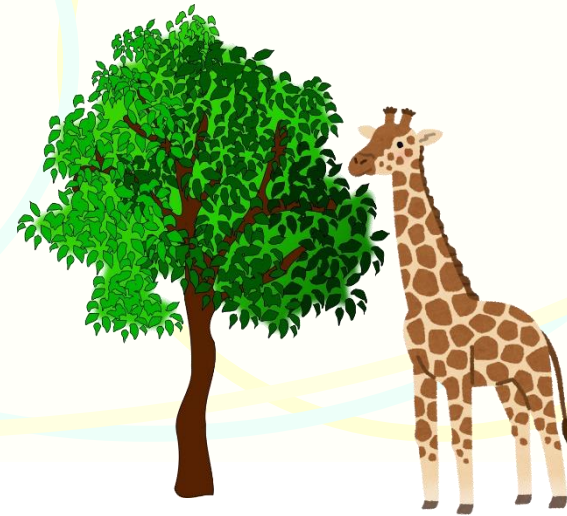
事務所のご案内
西武拝島線小川駅 西口から3分



障がいや病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい
18歳以上の人たちの生涯学習を支援する

訪問・福祉サービス事業 **あっと きりんかん**
訪問カレッジ@希林館

入学のご案内



特定非営利活動法人
地域ケアさぽーと研究所

〒187-0035
東京都小平市小川西町4-34-2
電話: 042-403-3229 FAX: 042-403-3229
URL: <http://members3.jcom.home.ne.jp/ccsupport/>
Email: ccsupport@jcom.home.ne.jp

特定非営利活動法人
地域ケアさぽーと研究所



「訪問カレッジ」のご案内

「訪問カレッジ @希林館」とは？

特別支援学校などを卒業後、障がいや病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の方のご自宅を学習支援員が訪問して、生涯学習を支援する訪問・福祉サービスです。

このような方がご利用いただけます

原則として東京都多摩地区に住み、障がいや病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の方で、学習支援員の派遣を希望している方。

どんなことが学べるの？

学習支援員は利用者に次の支援を行います。

- (1) 学習を支援すること。
- (2) 遊び相手になること。
- (3) 話し相手になること。
- (4) その他、理事長が必要と認めること。

具体的には学校で学んだ学習の延長と考えていただくと分かりやすいかと思います。



科目	内容(例)
国語	読み聞かせ、絵本作り、作文
音楽	音楽鑑賞、楽器演奏
家庭科	調理、被服
美術	絵画、写真、物作り
体育	ボールやポールを使った体操など
情報	パソコン、コミュニケーションエイド

事前の相談時に希望を出していただき、学習支援員と相談の上、決定させていただきます。その他、意思伝達装置の導入、おもちゃの改造、食事作り・介助、洋服のリメイクなどのご相談にもなります。



学習支援員について

特別支援学校や福祉施設等での勤務経験があり、障がいや病気に関する知識と理解を深めている者を派遣いたします。

訪問の回数・時間について

訪問の期間は、前期(4月から7月)、後期(9月から翌年2月)の単年度とします。訪問は1箇月につき1~4回(週1回まで)、平日又は土曜日において実施します。1回の時間は午前10時から午後5時までの2時間を基本とします。

受講料について

受講料は年額1万円とし、年度初めに本会指定の口座に入金していただきます。

お手続きについて

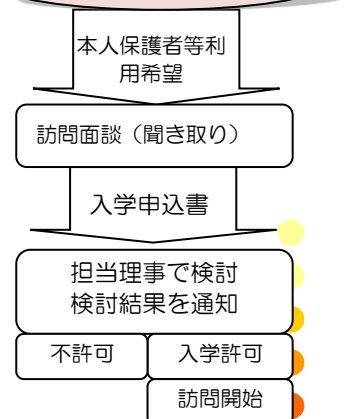
① 本会へ FAX(042-403-3229) か メール(ccsupport@jcom.home.ne.jp) で「訪問カレッジ@希林館入学希望」と連絡先をご連絡ください。

② 担当者がご自宅を訪問して、事業要綱のご説明のあと、「訪問カレッジ@希林館」入学申込書を記入していただきます。その際、希望の訪問の回数、時間、申請者の希望する学習内容を伝えていただきます。

③ 派遣を決定したときは、申請者に「訪問カレッジ@希林館」入学決定通知書をお渡しします。

④ 学習支援員の訪問が始まります。

手続きの流れ



特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所
訪問・福祉サービス事業要綱

平成24年 7月 1日 制定
平成28年 3月 18日 最終改正

(目的)

第1条 訪問・福祉サービス事業（以下「本事業」という。）は、障がいや病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の障がい者等（以下「利用者」という。）の自宅等へ学習支援員（以下「職員」という。）を派遣して、障がい者等の豊かな地域生活を目指した生涯学習を支援することを目的とする。

(名称)

第2条 この要綱により実施する事業の名称は、「訪問カレッジ@^{あつと}希林館」とする。

(対象者)

第3条 本事業の対象者は、障がいや病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の障がい者等であって、次に掲げる要件の全てを満たすものとする。

- (1) 原則として東京都多摩地域に住所又は居所を有すること。
- (2) 第1条の目的を達成するために、職員の派遣が有効であると認められる者であること。
- (3) 本人、保護者またはそれに代わる者が派遣を希望していること。

(事業内容等)

第4条 本事業は、利用者の自宅等に職員を派遣し、当該利用者に対して、次に掲げる支援を行うものとする。

- (1) 学習を支援すること。
 - (2) 遊び相手になること。
 - (3) 話し相手になること。
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、利用者の豊かな地域生活のために理事長が必要と認めること。
- 2 訪問は、1箇月につき1～4回（週1回まで）、平日又は土曜日において実施するものとし、1回の時間は、午前9時30分から午後5時までの間の約2時間を基本とする。
- 3 訪問の期間は、前期（4月から7月）、後期（9月から翌年2月）の単年度とする。年度ごとに支援の要否を見直す。

(受講料)

第5条 本事業の受講料は、年額1万円とし、年度初めに本会指定の口座に入金すること。年度途中で利用中止した場合には、原則として返金する。

(派遣の申請、決定及び変更)

第6条 本事業の利用を希望する本人、保護者またはそれに代わる者（以下「申請者」という。）が職員の訪問を希望する場合、「訪問カレッジ@希林館」入学申込書（第1号様式。以下「申込書」という。）を本会に提出する。

- 2 理事長は、申込書記載事項と申請者の聞き取りにもとづいて、訪問の回数、時間、申請者の希望する学習内容と訪問する職員のマッチング、家庭の状況、支援の有効性等を検討して決定する。
- 3 理事長は、派遣を決定したときは、申請者に「訪問カレッジ@希林館」入学・進級決定通知書（第2号様式）により通知する。

(派遣の中断、中止及び終了)

第7条 理事長は、次の各号のいずれかに該当するときは、派遣を中断する。

- (1) 利用者本人の体調が良くないとき。

(2) 第6条に規定する職員の派遣日の調整が困難となったとき。

(3) その他派遣が困難となる事由が発生したとき。

2 理事長は、次の各号のいずれかに該当するときは、派遣を終了するものとし、「訪問カレッジ@希林館」終了書（第3号様式）により、本人、保護者またはそれに代わる者に発行する。

(1) 支援の期間が満了したとき。

(2) その他派遣が必要でなくなったとき。

(学習支援員の登録)

第8条 理事長は、利用者に派遣する職員を事前に登録する。

2 前項の職員は、特別支援学校や福祉施設等での勤務経験があり、障がいや病気に関する知識を有し、理解を深めている者とする。

3 職員として登録を受けようとする者は、学習支援員登録申請書（第4号様式。以下「申請書」という。）を理事長に提出する。

4 理事長は、申請書の提出を受けたときは、速やかにその内容を審査し、登録することを決定したときは、学習支援員登録決定通知書（第5号様式）により当該申請書を提出した者に通知する。

5 職員の登録の期間は1年間とし、更新することができる。

(学習支援員の養成)

第9条 支援を効果的に行うため、本会で企画する重度訪問介護従業者養成研修等の研修会を実施し、職員に対して福祉の資格を取得するように働きかける。

(活動の報告)

第10条 職員は、実施した支援の内容等を記載した学習支援活動報告書（第6号様式。以下「活動報告書」という。）を偶数月の末日までに2か月分を提出する。

(事故の予防)

第11条 本会は、本事業における事故の予防に努めるとともに、職員が加入するボランティア保険の費用を負担する。

(交通費等の支給)

第12条 派遣した職員に対して活動費として、1回の派遣につき3,000円（交通費実費含む）を支給する。

2 活動費は、活動報告書により実績を確認した上で支給する。

(秘密の保持)

第13条 職員は、業務遂行上知り得た情報等を漏らしてはならない。退いたあとも同様とする。

(その他)

第14条 この要綱に定めるもののほか、本事業の実施について必要な事項は、理事長が定める。

附 則

(施行期日) (平成24年7月1日付け24地域ケア研第14号)

この要綱は、平成24年7月1日から施行する。

(施行期日) (平成25年3月5日付け24地域ケア研第24号)

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

(施行期日) (平成26年3月18日付け25地域ケア研第32号)

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

(施行期日) (平成26年3月10日付け27地域ケア研第18号)

この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

第1号様式（第6条の1関係）

「訪問カレッジ@希林館」入学申込書

年 月 日														
(宛先) 特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所 理事長 飯野順子 様														
「訪問カレッジ@希林館」への入学について、次のとおり申し込みます。														
申請者	ふりがな 氏名	印												
	住所・電話	住所 : 〒 電話 : E-mail :												
入学希望者	ふりがな 氏名													
	生年月日	年 月 日生 (歳)												
	住所・電話	(申請者に同じ場合は□にチェック) □同上 住所 : 〒 電話 : E-mail :												
学習支援について	希望の 日時・回数	<毎月1～2回の場合> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">派遣希望日</td> <td style="width: 50%;">時間</td> </tr> <tr> <td>第 . 曜日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 . 曜日</td> <td></td> </tr> </table> <毎週1回の場合> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">派遣希望日</td> <td style="width: 50%;">時間</td> </tr> <tr> <td>第1希望日 毎週 曜日</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2希望日 毎週 曜日</td> <td></td> </tr> </table>	派遣希望日	時間	第 . 曜日		第 . 曜日		派遣希望日	時間	第1希望日 毎週 曜日		第2希望日 毎週 曜日	
	派遣希望日	時間												
	第 . 曜日													
	第 . 曜日													
	派遣希望日	時間												
	第1希望日 毎週 曜日													
第2希望日 毎週 曜日														
希望の 学習支援 内容														
その他														

※いただいた個人情報は、訪問・福祉サービス事業のみで使用します。

第2号様式（第6条の3関係）

「訪問カレッジ@希林館」入学・進級決定通知書

平成 年 月 日

(宛先)

様

平成2 年度「訪問カレッジ@希林館」への（入学・進級）について、
以下のとおり認めます。

特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所

理事長 飯野順子 印

学習支援について	日時・回数	<毎月1～2回の場合>	
		派遣予定	時間
		第 . 曜日	
		第 . 曜日	
		<毎週1回の場合>	
		派遣予定日	時間
		毎週 曜日	
		毎週 曜日	
	学習支援内容		
	その他	○担当学習支援員連絡先 電話番号	

- ・訪問の日時については、原則です。具体的には前月・前の週に学習支援員（○）と相談して決めていただきます。
- ・受講料は年額1万円です。年度初めに以下の口座に入金をお願いします。

三菱東京UFJ銀行 口座の名義：特定非営利活動法人 地域ケアさぼーと研究所 普通預金 店番：611（鷹の台出張所） 口座番号：0095888
--

第3号様式（第7条の2関係）「訪問カレッジ@希林館」終了書

平成 年 月 日

(宛先)

様

「訪問カレッジ@希林館」の利用について、終了したことをお知らせします。

特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所
理事長 飯野順子 印

1 利用期間

平成 年 月から平成 年 月まで

学習支援員登録申請書

年 月 日		(宛先) 特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所 理事長 飯野順子 様 「訪問カレッジ@希林館」における学習支援員として、次のとおり登録致します。																	
申請者	氏名	印																	
	住所・電話	〒 電話 E-mail																	
学習支援について	勤務可能な日時・回数	原則として勤務可能な日時は以下の通りです。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">勤務可能な日</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">(毎月・週) 曜日</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(毎月・週) 曜日</td> <td></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(毎月・週) 曜日</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										勤務可能な日	時間	(毎月・週) 曜日		(毎月・週) 曜日		(毎月・週) 曜日	
	勤務可能な日	時間																	
	(毎月・週) 曜日																		
	(毎月・週) 曜日																		
(毎月・週) 曜日																			
支援可能な学習内容・特技																			
その他																			
活動費振込先	金融機関	ゆうちょ銀行	記号																
	預金種目	普通	口座番号																
	(フリガナ) 口座名義人																		

※いただいた個人情報は、訪問・福祉サービス事業のみで使用します。

学習支援員登録決定通知書

平成 年 月 日

(宛先)

様

「訪問カレッジ@希林館」の学習支援員として登録しました。

特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所
理事長 飯野順子 印

登録者氏名	氏名		
学習支援について	勤務可能な日時・回数	原則として勤務可能な日時は以下の通りです。	
		勤務可能な日	時間
		(毎月・週) 曜日	
		(毎月・週) 曜日	
	(毎月・週) 曜日		
	支援可能な学習内容・特技		
	その他		

学習支援活動報告書

年 月 日

(宛先) 特定非営利活動法人地域ケアさぽーと研究所
理事長 飯野順子 様

「訪問カレッジ@希林館」における学習支援員として、平成 年__月～__月分の訪問を次のとおり報告します。

氏 名 _____ 印

訪問日・時	訪問先	活動記録
平成 年 月 日 : ~ : (同行:)		
平成 年 月 日 : ~ : (同行:)		
平成 年 月 日 : ~ : (同行:)		
平成 年 月 日 : ~ : (同行:)		
平成 年 月 日 : ~ : (同行:)		

【資料1】氏名（山〇 利〇）

訪問カレッジ@希林館 平成30年度履修届

平成30年4月10日

<記入方法>

・「学びたい科目」を各分野から最低1科目を選び、希望の欄に〇をつける。

分野	科目	単位	希望	学習内容の例（具体的な内容は相談しながら考える。）
自然科学	物理学	1		宇宙飛行士のニュース？
	数学	1		生活費・小遣いの計算？
	科学	1		日食、月食？
	生物学	2	○	人体の構造。植物の観察
	コンピューター	3		伝の心の操作
社会科学	社会学	2		障害者問題（新聞の記事を参考）
	政治学	1		国会のニュース（新聞の記事を参考）
	経済学	1		自立生活と必要経費
	歴史学	2	○	日本史、世界史（フランス、特にフランス革命）
	倫理学	2		思想家の名言など
	心理学	2		心とからだの健康
人文科学	文学	3	レポート	文学作品の鑑賞（DVDや朗読カセットを活用する）
	創作	3	レポート	体験したこと、考えたこと、を自分の言葉で文章表現する
	哲学	1		人生とは何か、倫理社会、有名な哲学者と言葉
	宗教学	1		世界の宗教について知る
	外国語	1	○	身近な英語 他
芸術	音楽（鑑賞含む）	1	○	いろいろな領域の音楽に触れる
	美術（鑑賞含む）	1		有名な画家の作品を観る（インターネット）
	創作	1		作曲やパソコンによる絵画制作
	演劇・映画鑑賞	1		DVDを活用して、気になる作品を観る
健康)	3	○	身体への取り組み
		2		
選択科目	脳とからだ （脳性麻痺につ いて		○	

以上の中から1年間に10単位学習することを目標にする。

※単位について

1単位は60分×10回=600分（10時間）

- ・訪問学習は10時間学習したら1単位とする。
- ・宿題のレポート（課題に沿って書く）は1枚（400字～以上）1単位とする。
- ・創作については、以下の内容と字数を満たした作品を1単位とする。
内容 → 印刷し、多くの人に読んでもらえる表現である事。
字数 → 3,000字程度（長い作品の場合、6,000字は2単位、9,000字は3単位とする。）
- ・単位については、前期・後期それぞれで計算する。

※文化フェスタで「訪問カレッジ@希林館 単位修得証明書」を授与する。

「訪問カレッジ」のご案内

●「訪問カレッジ@希林館」とは？

障がいの重い方の生涯にわたり学び続けたいという夢や願いに応え、生き生きと生命輝く地域生活を可能にするために、「訪問カレッジ」を創設しています。

●このような方がご利用いただけます。

特別支援学校などを卒業後、障がいや病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の方です。それぞれのご自宅等を学習支援員が訪問します

●どんなことが学べるの？

学習支援員は、次の支援を行います。

- (1) 学習を支援すること。
- (2) 遊び相手になること。
- (3) 話し相手になること。
- (4) その他、理事長が必要と認めること。

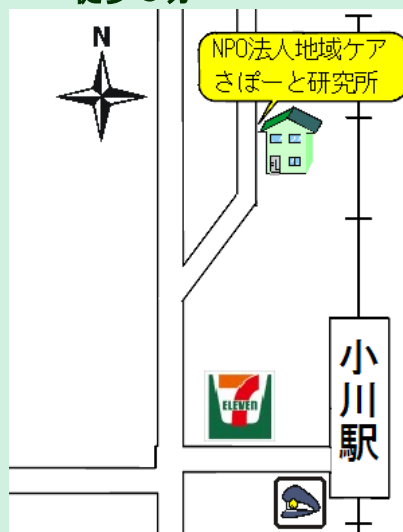


学校で培った学習を基盤として、更に持てる力を発揮し、その人らしく、主体的に学ぶことを大切にしています。学ぶ内容は、事前の相談時に希望を出していただき、学習支援員と相談の上、決定させていただきます。この他、意思伝達装置の導入、おもちゃの改造、食事作り・介助、洋服のリメイクなどのご相談にもあります。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

事務所のご案内

西武拝島線・国分寺線小川駅西口から
徒歩3分



特定非営利活動法人 地域ケアさぽーと研究所

〒187-0035

東京都小平市小川西町4-34-2

電話: 042-403-3229 FAX: 042-403-3229

ホームページ:

<http://members3jcom.home.ne.jp/ccsupport/>

Email: ccsupport@jcom.home.ne.jp

特定非営利活動法人 地域ケアさぽーと 研究所



重い障がいのある子どもとご家族
の地域生活を支援する



特定非営利活動法人 地域ケアさぼーと研究所趣旨及び経過

【設立の趣旨】

医学・医療技術の進歩に伴い、医療的ケアの必要な方々の在宅医療が進み、その支援のあり方が課題となっています。その課題は、①現状では24時間の継続的なケアは、家族の精神的・物理的・経済的な負担となっている、②家族に代わって、医療的ケアへの対応を担える人的な環境づくりが必要などです。

このような現状に鑑み、本研究所は、障害の重い方々の地域生活におけるQOLの向上を図るために、人材の開発・育成の事業を行うことを目的として、設立しました。

【設立の経過】

平成9年「医療と教育研究会」を設立し、養護学校(当時)の医療的ケアの課題に関する啓発活動に取り組む。

平成19年 特定非営利活動法人 地域ケアさぼーと研究所を設立する。

【事業者取得資格】

平成22年 重度訪問介護従業者養成研修
基礎及び追加課程(東障重学0057)

平成24年 喀痰吸引等研修機関第3号研修
(登録番号132000003号)

平成25年 重度訪問介護従業者養成研修
統合課程(東障重統学0003)

平成28年 同上 廃止

【事業内容】

- (1)重症心身障害児・者への支援事業
- (2)重症心身障害児・者への支援者育成・派遣事業
- (3)重症心身障害児・者の支援に関わる人材の開発事業

【事業案内】

1 重症心身障害児・者への支援事業

- 訪問・福祉サービス「訪問カレッジ@希林館」
・在宅の重症児・者のご家庭に学習支援員が訪問し、個々のニーズに合わせた生涯学習を支援します。

【内容】国語(読み聞かせ・絵本づくり) 音楽
美術(紙粘土・絵画)・健康・体づくり
情報(パソコン・コミュニケーションエイド)

【回数】月1回～週1回

- 「訪問カレッジ・文化フェスタ」

・「訪問カレッジ」の実践を報告するとともに学生の学習の成果を発表します。

【回数】年1回

2 重症心身障害児・者に質の高いサービスを提供する支援者の育成に関する事業

- 「みよ子さんのハッピークッキング」

・食べやすく・おいしい介護食調理の理論と技術を身につけます。

【内容】別調理(初期食・中期食・後期食)と再調理の理論と実習

【回数】年間4回 1回につき2日間

- 重症心身障害児者に関する知識・技能を有する専門家の派遣事業

【派遣先】特別支援学校・通所施設等

【内容】摂食指導・コミュニケーション支援等

3 重症心身障害児・者の支援に関わる人材の開発事業

- 「重症児者のたんの吸引等医療的ケア支援者養成研修事業(特定の者対象)」
・医療と連携してたんの吸引等医療的ケアを支援できる介護職等を育成します。資格を取得することができます。

【内容】たんの吸引・経管栄養の理論と演習

【回数】年間5回程度 1回につき2日間



支援者育成のための研修・講習会の 企画相談・講師派遣事業

【趣旨】

自治体、介護事業所、保育園、通所施設、特別支援学校、親の会等における研修会・講習会の企画相談・講師派遣などのお手伝いをします。

【プログラムの例】

- 1 医療的ケア講座
医療的ケアの歴史 法律学的知識
- 2 食事支援と介護食調理講座
摂食嚥下機能障害とその支援
形態別調理の実習
- 3 コミュニケーション支援講座
コミュニケーション支援とAAC
スイッチを使った玩具操作
- 4 たんの吸引・経管栄養講座
重症児者の呼吸障害とその対応
重症児者の摂食嚥下障害とその対応
たんの吸引・経管栄養の実習
- 5 介護技術講座
重症児者の身体的特徴とその対応
筋緊張や反射に配慮した移乗
日常の姿勢づくり

- 1 調査年月日 平成28年5月末日～平成28年6月末日
- 2 調査方法 東京都重症心身障害児(者)を守る会 各支部の会長に依頼 分会毎に回収
- 3 回収数 75名
- 4 調査結果 年齢の平均 ご本人 32.8歳(18歳～45歳) ご家族 62.6歳(44歳～80歳)
- 5 趣味・生きがい等文化的・創造的活動の機会と場
 - ① 家でゆっくりしている
 - ② 新宿で学習会サロン(月1～3回)をやっている、参加している。学習は、メンバーの希望で話を聞いたり、古典や演劇、外出、旅行と様々です。(24歳 大田生活実習所)
 - ③ 特に、体づくりなどをやらせたいと思いますが、だんだん親も年齢が高くなり、出かけることが難しくなっています。重度障害者が多くなってきているため、通所日数が減ってきています。体を動かすことが少なくなることが心配です。(23歳 母・61歳 よつぎ療育園)
 - ④ 生活介護での療育活動は、医療的ケアの方の増加で、激減しています。その中で、スタッフの方々は、一生懸命がんばって下さっていますが、厳しいです。学校生活が終わったら、教育的活動は終わってしまうという現実がありますが、この子たちは自分で動くことができない分、学校生活のような場が必要だと感じています。親ができることとできないことがあります。今は、親ができることができなくなってきている先輩の方をみえています。(31歳 母・56歳・よつぎ療育園)
 - ⑤ 訪問入浴で使われている入浴器具一式を購入し、毎日入浴させ、その中でできることに力をいれている。(33歳 母73歳 東大和療育センター)
 - ⑥ 親の体調が悪いため、子どもについては、思うようにできません。(48歳 母78歳 東大和療育センター)
 - ⑦ 障害が重くなる前は、映画館やコンサートにも行けていましたが、気管切開してからは、たんの吸引があることや現在使用しているストレッチャー式の車いすでの移動、入場は大変厳しいものがある。(26歳 母59歳)
 - ⑧ 寝たきり、意志も伝わりにくいと思っていたが、少しでも、伝達能力を伸ばしてみたいと思う。ただ、親もね年齢とともに体力・気力はダウンし、子どもも外出しにくくなっている。(22歳 母51歳)
 - ⑨ 現在、登録人数が少ないので週5日通えています、登録人数が増えると、通える日数が減らされることになっています。生涯学習の機会があることは、将来的に本当にありがたいと思います。(18歳 母52歳)
 - ⑩ 青年学級で、油彩コースに入っている(月1回) 月1～2回 親の会の自主サークルで障害者の仲間で、ハンドベルを習っている。年1～2回、発表会もある。(39歳 母67歳 練馬区立関町福祉園)
 - ⑪ 現在下のような取り組みを行っていますが、個々の関わりではないので、個人として学ぶ時があったら楽しい時を過ごすことができると思います。どんなに障害が重くても楽しく過ごさせたいのが親の気持ちです。(母75歳)

【QOLの高い、心豊かな地域生活のために】
生涯学習ニーズ調査:学びたいこと・学ばせたいことから

今後設けたい講座 一覧	人数
① ミュージック・セラピー～音楽を楽しむ	54
② 健康・体づくり～からだを緩め、緊張を解く	49
③ アロマ・セラピー	45
④ 読書活動～読み聞かせ等を通して、本に親しむ	41
⑤ スヌーズレン～感覚を磨く	38
⑥ コミュニケーション支援機器(iPad等)を操作する	32
⑦ ボウリング・ゲーム等	29
⑧ スイーツづくり～ティータイムを楽しむ	27
⑨ 物づくり～絵画・紙粘土などの制作活動をする。	23
⑩ 地理・歴史～映像で世界を旅する～世界の文化・歴史に親しむ	23
⑪ 文学～創作活動～詩作・作曲・お話づくりにチャレンジする	20
⑫ 福祉～生活に関する身近な福祉を学び、生活に生かす	18

- 追加項目 映画鑑賞 舞台 コンサート 日本全国鉄道の旅 歴史を学ばせたい。
- 休日は、外出をしないで、静かにしている方が多い。
- 現在通所している施設においても、上記のような活動を行ってほしいという方が多い。

重度障害者（18歳以上）の生涯学習・社会教育の現状に関する調査

- 1 実施時期 平成29年4月24日に依頼 29年6月1日締め切り
- 2 対象 東京都区市町村生涯学習・社会教育主管課対象 62か所
- 3 回答数 40か所
- 4 結果
 - ① 障害のある方の社会教育の講座 有り 21か所（50%）
 - ② 医療的ケアの必要な方の参加 有り（町田市）
 - ③ 家庭への訪問の仕組み 有り（中野区 日野市）
- 5 講座内容
 - ・A区 心身障がい者青年教室 水泳 フライングディスク 音楽 美術 調理 生け花 スポーツ
 - ・N区 いずみ教室（29.3.31で廃止） 社会教育訪問学級がある。
 - ・F市 青年学級 にじのはらっぱ（知的） 音楽 ダンス 民踊 工作
 - ・M市 障がい者青年学級 公民館学級（毎月1,3日曜日） ひかり学級毎月1,3日曜日＝重度障がい者）
音楽 キックベースボール 調理 話しあい学習
 - ・K市 音楽 料理 絵画 レクリエーション 野外活動 夏のキャンプ 春の旅行
 - ・T区 生涯学習課 下谷青年学級（知的）フライングディスク ボウリング 調理 お金の使い方、地震
 - ・T東区 スポーツ振興課（全障害を対象）障害者水泳教室 障害者スポーツ体験会（シッティングバレーボール
車いすバスケットボール ブラインドサッカー ボッチャ）
 - ・I市 青年学級ともだちクラブ 障害者サッカー教室（委託業者が開催）
 - ・B区 スポレクひろば（知・精）
 - ・B区 アカデミー文京学習推進係 文京アカデミア講座（地域・文学・歴史・社会・自然科学・芸術・くらし
語学 健康 スポーツの分野 音楽・調理・能楽・絵画・書道・ヨガ・ストレッチ・ダンス
 - ・H市 障がい者青年教室「青年ビートクラブ」（軽度の知的障害者）音楽 調理 ボッチャ グランドゴルフ
 - ・A市 障がいのある青年の交流講座 1か月に2回実施 よさこいソーラン 調理 工作（知・肢）
 - ・T市 のびのびサークル（ダンス リトミック）
 - ・T区 千代田区日曜青年教室（障害は混在している。）ボッチャ 風船バレーボール 水泳 ボーリング
ストレッチ ことばと数の学習 書道 茶道 パソコン フラダンス 太極拳
 - ・M市 障がい児水泳教室 視覚障害者IT講習会 聴覚障害者IT講習会
 - ・H町 障がい者スポーツ教室（リズム体操 フライングディスク）（知・肢・精・重度）フライングディスク
 - ・S区 杉並区済美日曜教室 音楽 調理（知）
 - ・K市 けやき青年教室 サッカー ボッチャ ディスクゴルフ 音楽 調理 フラダンス スケッチ（知）
 - ・H市 訪問の取り組みがある（年間受講時間 一人70時間）
 - ・K区 エンジョイクラブ 野球 音楽 調理 工芸 パソコン（知）
 - ・S区 新宿青年教室 障がい者のスポーツデー（プール）、（卓球・フットサル）
障害者のためのハンディキャップ・スイムデー 障害者福祉センターでの講座講習会（別紙）
- 6 参加費（徴収している場合）
 - ・材料費として 年間 美術1500円 調理3,500円 生花4,500円 対象 知的
 - ・月 100円～徴収 ・年間 1,500円（T区） ・年間 1,000円
- 7 予算
 - ・謝礼 講師・スタッフとして、895,000円 合宿施設借り上げ料 12,000円（F市）
 - ・1,654千円（T区） ・報償費として 942,400円（H市） ・運営委託料 350,000円（T市）
- 8 課題
 - ① 受講者が増えたり、ケアの必要な方が増えることにより、安全な実施のためには、より多くのスタッフが必要となるが、地域のボランティアに協力してもらっているため、確保が難しい。受講者とスタッフのつながりを大切にするには、地域の力を活用しているものの、どうすべきか今後の課題と考える（荒川）
 - ② 学級生、スタッフ、ボランティア等の高齢化と確保（福生市）
 - ③ ボランティア不足 定員いっぱい 高齢化（本人、父母）（町田）
 - ④ 情報発信力の強化や場所の確保、連携協働の推進（小金井市）
 - ⑤ 活動していくにあたり、ボランティアの不足
 - ⑥ 年齢幅（10代～60代）の格差に適切に対応するための工夫 重度の受け入れ人数とボランティアスタッフ数の調整が困難

- ⑦ 人材育成 多様なニーズへの的確な対応策
- ⑧ 学習で得たものを地域に広げる循環型の生涯学習の定着が課題と考える。
- ⑨ 障害者の生涯学習・社会教育活動を支える施設等や人材の育成・確保等の環境を整えること
- ⑩ 生涯学習・社会教育の充実に向け、生涯学習と社会教育、公民館との連携について、検討を進めていく・
- ⑪ 少子・高齢化による人口減少で団体数や受講者の数が、年々減っている。
- ⑫ 福祉的な対応が必要と思われ、専門職の配置
- ⑬ 受講者増加に伴う講師の確保 医療的ケアの必要とする受講者の増加のため、講師の配置に苦慮している。
- ⑭ 参加できる対象者が絞られる。
- ⑮ 障害をもった方に対し、生涯学習や社会教育を提供する必要があると考えるが、専門的知識をもった職員の配置等十分な実施体制を整える課題がある
- ⑯ 市民がいつでもどこでも学ぶことができる環境を整備し、学びの成果が街づくりの中で生かされ、地位や社会の中で活動する市民が増加できるよう施策を推進していくことが今後の課題である。
- ⑰ 利用者の高齢化と青年学級を支えている指導者・協力者の確保が困難になりつつある。新たな地域施設として中高生の居場所など、事業の再編、実施方法等を見通して、施設運営や改修等（昭和45年開設）のあり方の検討が課題である。
- ⑱ 予算の確保、参加者の確保、運営スタッフの確保・運営

「重度障害者・生涯学習ネットワーク」設立趣旨書

平成29年12月25日

生きることは、学ぶこと。
学ぶことは、生きる喜び。
生涯にわたって、学ぶ続ける喜びを！

医療的ケアを必要とする障害の重い方の多くは、在宅生活を余儀なくされていますが、心豊かな生活の実現のために、「大学に行きたい!」「もっと勉強したい!」などの「学び」を希求しています。それは、存在を懸けた声にならない叫びです。

そのような方の生涯にわたり学び続けたいという夢や願いに応えるために、私たちは、「カレッジ」等の名称を冠した学びの機会と場を創ってきました。その取り組みは、かけがえのない人生のかけがえのない「時」を、学びたいことを学ぶ「時」とすることがモットーです。そして、そのことによって、生きがいと喜びがあり、生き生きと輝く地域生活を可能にすることです。

その取り組みを約5年間継続してきましたが、一つ一つの団体としてではなく、ネットワーク化して、力を合わせ、活動を拡充していくことが必要であると考えました。

「障害者の権利に関する条約（第24条）」では、「あらゆる段階における障害者を包容する教育制度及び生涯学習を確保する」と提唱しています。更に、文部科学大臣は、「障害のある方々がそれぞれのライフステージで夢と希望をもって生きていけるよう、生涯にわたる学習活動の充実を目指すために関係部局の連携を図ること」と発出しています。

そのような時代背景の変化に鑑み、この度、下記の団体による「重度障害者・生涯学習ネットワーク」を結成し、発足することにいたしました。活動等の概要は、以下のとおりです。

1 参加団体

「訪問カレッジ@希林館」	特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所	代表	飯野 順子
「訪問大学 おおきなき」	おおきなき	代表	相澤 純一
「ひまわり Home College」	NPO 法人ひまわり Project Team	代表	藤原 千里
「いるか」	NPO 法人 かすみ草	代表	加藤 はる江
「i.porte (あいぼると)」	NPO 法人あいけあ	代表	岡安 玲

2 活動内容

- (1) 重度障害者の生涯学習システムの開発
- (2) 重度障害者の生涯学習に関する理解・啓発活動
- (3) 生涯学習の学習内容に関する検討並びに系統化
- (4) 合同スクーリング及び本人講座の開催
- (5) 生涯学習に関わる人材の育成及び確保
- (6) 生涯学習に関する情報交換

3 当面の活動予定

- 3月中旬に、生涯学習に関する公開情報交換会を行う。
- 年1回、理解・啓発の会を開催する。
- 補助金等の確保に関する活動を随時行う。

訪問カレッジ通信

第5号



「やまびこ」

〒187-0035

東京都小平市小川西町4-34-2

電話&FAX 042-403-3229

Email: ccsupport@jcom.home.ne.jp

夢がふくらむ活動の場に!

事務所を移転して、1年たちました。スペースが広がったことによって、この一年で活動が拡充し、今後の展望も構想できるようになりました。

4月のある日、学生の佐藤豊さんが事務所を訪ねてきました。見学と新たにつくった作品の展示替えをしたいとのこと。初めてのスクーリングの実現です。狭い玄関は難関でしたが、部屋ではソファベッドに横たわって過ごしました。その日、佐藤さんには、二つのサプライズがありました。

この日は、「障害児保育園ヘレン」や「障害児訪問保育アニー」のスタッフとなる「認定NPO法人フローレンス」の方々の研修初日です。参加された11名の方に、佐藤さんの学習の成果などを紹介する機会を設けました。同年代に近い方々との触れ合いは、貴重なコミュニケーションのひとつとなりました。また、「友達の佐藤友哉くんここでいっしょに活動できれば良いね!」との夢もふくらみました。

更に、本研究所は小川駅から徒歩3分。2階建ての建物は線路際にあり、電車の往き来の音がもろに聞こえてきます。研修の際には、皆さん集中していますので、思いの外気にならないと言って下さっていますが、豊さんは、窓際で電車を見て、音や振動を感じて、生き生きした表情を見せてくれました。豊さんにとってのサプライズが、この環境に付加価値を見出すことになったのです。この場所で、スクーリングすることは、心豊かな体験になるという活動の構想が見えた時でした。

現在、事務所には常時誰かがいるような状況ではありませんが、お立ち寄りいただければ、活動の様子等を展示しております。お気軽にどうぞ!

以下は、フローレンスの研修内容です。

●「重症心身障害児に関わる保育士等研修」(5日間)

第1日 コミュニケーション支援(発達 AAC 支援機器等)

重症児の介護(ポジショニング 姿勢反射 移動・移乗支援)

第2日 摂食嚥下障害に対する支援(嚥下のメカニズム 発達) 食事介助の演習等

第3日 喀痰吸引を必要とする重度障害者の障害及び支援に関する講義等

第4日 経管栄養を必要とする重度障害者の障害及び支援に関する講義等

第5日 他機関との連携 ・特別支援学校見学・発達を支援する遊び(感覚・ICT)

保護者への心理的配慮 研修のまとめ

特定非営利活動法人地域ケアさぼーと研究所理事長 飯野順子



学びの風景

苗村尚江さん（平成24年度入学生）

訪問の予定がある日の前日、尚江さんのピンクの携帯電話が鳴ると、「はい、尚江です」と次の日の授業でやりたいことを自分で話して伝えます。二週間前の授業の後に話した内容を覚えていて、「スタンプやりましょう。他にありますか？」言葉を聞き取ってもらえない時お母さんを呼ぶこともあります。この日はお母さんが留守中でも1人で打ち合わせ完了。カレッジのベテランです。

次の日、尚江さんの授業は「これから、きりんカレッジを始めます」と元気な声で始まります。

さて、これは色々な大きさにカットした消しゴムです。ここにマジックペンで尚江さんが模様を描くと…こんな風になります。



そして次の訪問では、カットしたスタンプにインクをつけて作品作り。今年は自分のTシャツ。形を選んで、スタンプの色を選んで、手を遠くまで伸ばしてペタン。「せーの!」と持ち上げる瞬間にみんなでワァ!とうとう完成しました。明日さっそく通所『夢』に着ていくそうです。



Hisae ブランド名もちゃんと入ってます

岩村和斗さん（平成24年度入学生）

パソコンやiPadを使って学習しています。パソコンでは、意思伝達装置「伝の心」を使ってfacebookに日記を書いています。

にちようびとげつようびに、あたみに、おとうさんとおかあさんといっしょにいった。きょうりゅうはくぶつかんにいった。



iPadでは、白地図を使った県名当てゲームを創ったり、「スーパーマリオラン」などゲームを楽しんでいます。地図を見て県名を当てるゲームは、県のユルキャラと一緒に覚えるようにしていました。

「マリオラン」では穴に落ちないようにタイミング良く肩でスイッチを入れられるようになり、一人で最初の画面をクリアできるようになりました!



学習支援員の先生から

学習支援員として皆さんを訪問している先生方の横顔を紹介します。

ネパールトレッキング

齋藤幸子

2月初旬から25日間、ネパールを旅してきました。今回の旅の目標は、「エベレストを見る！」夫が「ガイド」を務めてくれたのですが、10キロ近くのザックを背負って歩くヒマラヤの道は、想像以上に厳しいものでした。首都カトマンズから飛行機で30分、2800mの断崖の上にあるルクラという「世界一危ない」飛行場に降り立ってから、エベレスト街道と呼ばれる山道をひたすら歩きました。車はもちろんのこと、バイクも自転車も走らない山道、荷物はポーターやロバ、ヤク等の家畜が背負って行きます。ポーターの中には100キロの荷物を背負った人もおり、この人は特別としても、大抵5～60キロは背負っていました。それでも私を追い越して行くのです。

緑豊かな風景が次第に石と岩だけになり、遠くに見えていた白い山々が目の前に迫ってくる頃になると、標高は4500mを超えていました。息は苦しく、やっとの思いで一歩一歩を踏み出すという有様だったのですが、青い空と目の前に広がる山々、遙か下の川まで続く断崖、それらがあまりに雄大で、ここであきらめるの？目標は？等と自問自答しながら歩くこと9日。ようやくエベレストを臨む、5500mのカラパタールという山に辿り着きました。登るにつれて手前の山々の向こうに徐々に姿を現すエベレスト、「これが885



0m世界最高峰の山エベレストなんだ」と思うと疲労も吹き飛びました。目標達成！です。薄い空気と氷点下の寒さ、厳しい環境ですがヒマラヤの自然は素晴らしい、の一言でした。

ネパールはヒマラヤだけではありません。カトマンズとその周辺には、古くからの王宮や寺院が建ち並ぶ歴史のある広場があり、南にはジャングルが広がっています。2年前の地震で崩れた建物がそのままになっている所も見られて、震災からの復興はまだですが、人々も親切で町は活気にあふれ、ネパールは魅力いっぱいの国でした。

本「すべての人が輝く みんなのスポーツを」の紹介

加藤徹

2020年オリンピック・パラリンピックが東京で開催されますね！人類の平和と友好の祭典が障害のある人も、ない人も一緒にスポーツを楽しめるって素敵ですよ。この本はそんな願いを実現したいということで作られました。オリンピック・パラリンピックの壁を越えてというのがサブタイトルです。

まだまだ一部の人のみに限られているスポーツを「指一本でも動かせることでスポーツを楽しめるんですよ！」ということを実際にやっている障害者の人たちがたくさん登場します。ぜひご覧ください。2割引一冊 1500円です。直接編著者・加藤までご連絡(070-1077-9397)ください。



情報

平成 29 年 4 月 7 日に松野文部科学大臣が、特別支援教育の生涯学習化に向けてのメッセージを発信しました。私たち訪問カレッジが目指している障害の重い方の生涯学習そのもの話ですので、全文掲載します。

特別支援教育の生涯学習化に向けて

私はかねてより、障害のある方々が、この日本の社会でどうしたら夢や希望を持って活躍していくことができるかを考えてきました。その中でも印象的だったのが、特別支援学校での重い知的障害と身体障害のある生徒とその保護者との出会いです。その生徒は高等部 3 年生で、春に学校を卒業する予定であり、保護者によれば、卒業後の学びや交流の場がなくなるのではないかと大きな不安を持っておいででした。他にも多くの保護者から同様のご意見をいただきました。

これまでの行政は、障害のある方々に対して、学校を卒業するまでは特別支援学校をはじめとする「学校教育施策」によって、学校を卒業してからは「福祉施策」や「労働施策」によって、それぞれ支援を行ってきました。しかし、これからは、障害のある方々が、学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、教育施策とスポーツ施策、福祉施策、労働施策等を連動させながら支援していくことが重要です。私はこれを「特別支援教育の生涯学習化」と表現することとしました。

文部科学省では、このような観点から昨年 12 月に「文部科学省が所管する分野における障害者施策

の意識改革と抜本的な拡充」を公表しました。併せて、省内の体制を確立するために「特別支援総合プロジェクト特命チーム」を設置しました。さらに、今年度から生涯学習政策局に「障害者学習支援推進室」を新設しました。

今後、この「障害者学習支援推進室」を中心に全国的に「Special プロジェクト 2020」や特別支援学校等における地域学校協働活動の推進、卒業後も含めた切れ目ない支援体制の整備の促進、障害のある学生への大学等における支援体制の充実等に取り組んでいきます。

各地方公共団体におかれては、障害のある方々がそれぞれのライフステージで夢と希望をもって生きていけるよう、生涯にわたる学習活動の充実を目指し、生涯学習や特別支援教育、スポーツ、文化、福祉、労働などの関係部局の連携の下、国とともに取り組んでいただきますようお願いいたします。

今週（4 月 2 日～8 日）は発達障害啓発週間です。改めて、国と地方公共団体、企業に加えて地域の皆さまとともに、障害のある方々がわけ隔てなく、互いに尊重し合いながら共生する社会の実現を目指していきたいと強く願います。

平成 29 年 4 月 7 日

文部科学大臣
松野 博一

「賛助会員」の募集



- 1 賛助会員の年会費は
 - ・個人 一口 3,000円
 - ・団体・法人一口 10,000円 です。(何口でも構いません)
- 2 ご賛同いただける場合は、振込用紙をご利用

いただき、郵便振替口座にお振り込み下さい。

- 3 「訪問カレッジ通信『やまびこ』」を年 2 回発行し、お届けします。
※会費は、フォーラム、文化フェスタ、通信の印刷・送料に充てさせていただきます。
賛助会員数 個人 57 名 団体 4 (H29.5.13 現在)

【振替口座】

口座名 トクヒ)チキケアサポートケンキュウシヨ
口座番号 00110-2-616037

p. 4

第4回訪問カレッジ文化フェスタの収穫は・・・

理事長 飯野 順子

キンモクセイの香りが広がり、ハナミズキは赤い実をつけ、柿は熟し始めています。秋は、実りの時です。そして、「訪問カレッジ」も学びの実りの時です。その発表の機会として、「第4回訪問カレッジ文化フェスタ」を開催しました。その日は、1年間の学びの積み重ねを経て、学生の一人一人が、個性豊かにそして確実に成長したことを、確信できた時となりました。紙面の都合で、会場に出席した学生さんの様子のみをお伝えします。



- 佐藤豊さんの染色の作品は、見応えがありました。マリーゴールドの染め物は、深みの有る色で、質の高い作品です。「国立極地研究所」はおすすめスポットだそうです。
- 「学習活動の報告・全員集合～訪問時の一コマ」(パワーポイント)のめくりは、額にスイッチをつけた佐藤友哉さんが行いました。一コマ一コマの操作は、徐々に、タイミング良く、スムーズになりました。作曲もイメージ豊かに仕上がっています。
- 苗村さんの歌「小さな世界」の発表は、手話付きで、澄んだ声は、一昨年より一段と明瞭でそして歌う楽しさが伝わってきました。
- 「京子と茂吉の愛の物語」(山本利恵作)が完成しました。高校時代の体験から、悲しいことや暗いニュースがある中で、世の中には温かいことがあること、生命を大切にすることなどを伝えたいと、創作したそうです。
- 伊田葉月さんは、7月から入学しました。短い期間に作成したアクセサリや小さな織物は、心を込めて創った思いが伝わってきます。発表内容も、自分でつくっています。発表が終わりに近づくと、ポ～っと頬を赤く染め、その姿は印象的でした。

後半は、「音楽の時間」です。学生にとっては、スクーリングです。

「ハッピークローバー」(整育園の職員)の皆さんは、ピアノ・バイオリン・フルートの演奏、そして「ボラチート」(特別支援学校の教員)の皆さんは、フォルクローレの演奏でした。それぞれ趣の異なる音楽に心躍らせ、かけがえのないひとときとなりました。ご協力に感謝です。

今年は、2人の学生さんが20歳を迎えました。お一人のお母さんから、次のようなお手紙をいただきました。その一部です。

「これまでたくさんの方と出会い、愛に支えられ、素敵な女性に成長し、20歳を迎えることができました。これからも、かけがえのない時間を共に精一杯歩んでゆこうと思います。」手紙文の「**素敵な女性**」という表現に心打たれました。

びわこ学園の創始者糸賀一雄先生は「この子らが自ら輝く素材そのものであるから、いよいよみがきをかけて輝かそうというのである。『この子らを世の光に』である」と謳いました。私は、この文言を大切にしながら、歩んできました。訪問カレッジの学生は、**全員素敵な男性・素敵な女性**です。更に、みがきをかけて、輝いてほしいと願っています。

第4回訪問カレッジ♣文化フェスタを開催

平成29年10月14日（土）、東京都立小平特別支援学校音楽室を会場に「第4回訪問カレッジ♣文化フェスタ」を開催しました。当日は総勢60人以上の参加があり、学生の皆さんも5名参加できました。ご参加、ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

◆参加していただいた方々からの感想◆

<展示について>

- 廊下に作品展示があったのは、カラフルでよかったです。室内が広く使えたのも良かったです。
- どれも素晴らしい作品ばかりでした。
- 活動の成果がよくわかりました。
- 増田さんが元気そうで、素敵な作品をみることでできたのが何よりうれしかったです。学生さんの表現活動等、生の声を聞いたことも大きな収穫です。



<学習活動の報告>

- 学生の皆さんの頑張りがよくわかりました。
- 日頃の取り組み、頑張っている様子、生き生きと活動している様子がよくわかりました。
- 学生さんの希望、先生の個性により、豊かな時間が過ごせていらっしやる。素晴らしいと思いました。

- 今回は、佐藤友哉さんがスタッフとして、スライド操作をされていたのにびっくりしました。電動車いすといい、自分の夢を一つずつ現実に行っている姿に感動しました。



<バンドの演奏>

- ボラチートのファンの子がいるので楽しみに参加しました。



平成29年度 新入学

伊田葉月さん（平成29年度入学生）

伊田葉月です。7月から訪問カレッジの大学生になりました。可愛いものを作るのが好きで、レジンや、機織りで織物を作りました。

音楽を聴いたり、漫画や小説を読んだりするのが好きです。



学びの風景

佐藤友哉さん（平成26年度入学生）

佐藤友哉です。私の好きな動物は、ねこです。好きなお勉強は、美術と音楽です。将来の夢は、電動車いすで外出をし、ディズニーシーへお出かけしてみたいです。

今、訪問カレッジでは、パソコンを利用し、様々な曲の作曲をしたり、オリジナルの絵本を書いたりしています！

文化フェスタの感想

文化フェスタではみなさんの前で作曲した曲を二曲披露したり、電動車いすの操作を見てもらったりできてとっても楽しかったです。また、久しぶりに昔お世話になった分教室の先生にもお会いできてすごく嬉しかったです。他の人の発表が去年よりも訪問カレッジの授業を受けている生徒さんが多かったのでビックリしました。また、はじめてピアノやギターなどの演奏を聴くことができとっても良かったです。自分で電動車いすを運転して構内をはしることができてよかった。

来年度は、パソコンを持って行き作曲した曲や、今制作中のオリジナル絵本をみなさんの前で披露したいです。そして、ぜひ、学生の発表の司会をしてみたいです。



お礼

岩村和斗さんのご両親が行っているケアステーションほたる（重度訪問介護）さんから、地元のイベントに出店した売り上げを本会に寄付していただきました。写真はボランティアチームリーダーの岩村和斗さんとお母さんから寄付をいただいた時の様子です。

ありがとうございました。



平成 29 年 10 月 2 日

訃報

昨年度、入学した坂口浩太さん（都立八王子東特別支援学校卒業）が11月6日未明にお亡くなりになりました。謹んでお悔やみ申し上げます。

情報

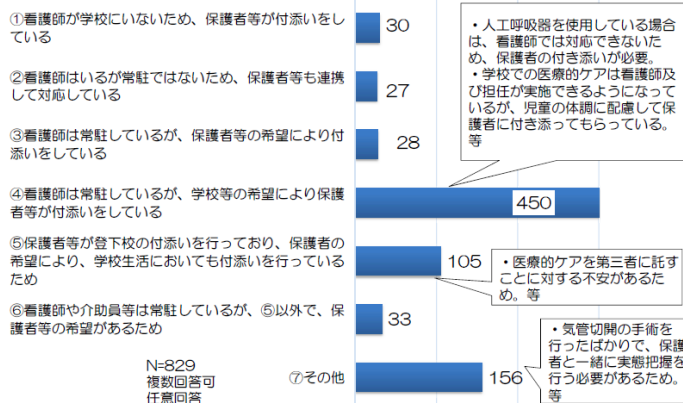
公立特別支援学校における医療的ケアを必要とする 幼児児童生徒の学校生活及び登下校における保護者 等の付添いに関する実態調査

文部科学省 平成29年4月19日

文部科学省は、平成29年4月19日に「公立特別支援学校における医療的ケアを必要とする幼児児童生徒の学校生活及び登下校における保護者等の付添いに関する実態調査」を発表しました。通学生 5,357 名のうち保護者等が付添っている人数は 3,523 名（65.8%）で、その理由として「看護師は常駐しているが、学校等の希望により保護者等が付添いをしている」の回答が最も多かったと報告しました。

この調査を受けて、文部科学省は「看護師配置により保護者の負担軽減の配慮に可能な限り努めること」「文部科学省としては、人工呼吸器の管理を含めた特定行為以外の医行為について、個々の児童生徒等の状態に応じてその安全性を考慮しな

がら、対応可能性を検討すること」「一律に保護者による送迎と判断するのではなく、…個別に対応可能性を検討し判断すること」「特別支援教育就学奨励費……通学に要する交通費（本人経費）においてタクシーや介護タクシーの利用料を対象とすることが可能」「障害福祉サービスで実施している通学支援等を利用するなど地域特性を考慮」などを通知しました。



「賛助会員」の募集

- 1 賛助会員の年会費は
 - ・個人 一口 3,000円
 - ・団体・法人 一口 10,000円 です。（何口でも構いません）
- 2 ご賛同いただける場合は、振込用紙をご利用いただき、郵便振替口座にお振り込み下さい。

- 3 「訪問カレッジ通信『やまびこ』」を年2回発行し、お届けします。
※会費は、フォーラム、文化フェスタ、通信の印刷・送料に充てさせていただきます。
賛助会員数 個人61名 団体4（H29.11.1現在）

【振替口座】
口座名 トクヒ）チキケアサポートケンキュウシヨ
口座番号 00110-2-616037

5年目を迎え、新たな展開の時を迎えています!!

理事長 飯野 順子

今年の入学式には、「育ててくれて ありがとう」(絵・文 葉 祥明)を読みました。

ボクは このせかいでは、ふじゆうのようにみえるけれど、
ボクのほんとうのすがたをしたら、
きっと、ママもパパもおどろくよ ボクのたましいは、かんぺきさ!
そのちからづよさと、かがやきを かんじてほしいな!



特に、「ボクのたましいは、かんぺきさ!」のところを、力を込めて読みました。入学式を、一人一人の内面の豊かさ、つよさ、美しさなど、その輝きは、見えないけれどもあるということ、確かめ合う時にしたかったからです。一人一人の内面を見つめ、磨きをかけるのは、「訪問カレッジ」の活動の根幹です。また、「育ててくれて、ありがとう!」という感謝の気持ちを、新入生に代わって、ご家族の方に、伝えたいからです。「一緒に、がんばろうね!」との気持ちも、込めています。

更に、葉祥明さんは、ハンディキャップのある人は、人生のチャレンジャーとの考えを貫いており、こんなことも言っています。

すべての子が、自分の親に特別な感謝の念を抱いていますが、ハンディキャップをもって生まれた子は、あなたに、通常では得られない特別な人生の宝をプレゼントしてくれるでしょう。



「訪問カレッジ@希林館」は、5年目を迎えました。私たちも新たな仕組みづくりにチャレンジしてきました。歴史的な視点で振り返ると、「言い出して5年、事が成るには、10年の歳月が必要」と実感していますが、5年目の今年、新たな展開の時になりました。

文部科学省で「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」(後述)がスタートしたのです。その会議での意見聴取の際、次のことを伝えようと思っています。

『訪問カレッジの活動は、余暇活動ではありません。学ぶことは、生きること、一人一人の存在を創る取り組み、そして、喜びと幸福感をもたらす取り組みです。このことは、人としての権利であり、その尊厳が問われる根源的なことです。「生命、自由及び幸福追求は、国民の権利(憲法第13条)」との立ち位置で考える必要があると思うようになりました。「訪問カレッジ」の意義は、次の3点です。

【1 医療的ケアの必要な方の心豊かで幸福な人生の構築】①生命を育み、生命を強め、生きる力を高める。②日常生活の空間を、知的刺激のある学びの環境として整え、生活の質を高める。③本人主体の活動を創出する。【2 家族への支援】①家族の孤立化を防ぐ～話し相手・心理的な支え。②喜びを分かち合い、関係性を深める。【3 地域社会への発信】①生命を尊重し、生命の価値を多くの方に伝えるなど、新たな価値観を創造する。』

15人となりました学生さんの顔を思い浮かべながら、委員の方々に、その必要性和切実さを訴えたいと思っています。

平成30年度 新入学生紹介

平成30年度の新入生は4名になりました。進級された11名とあわせて、本年度は15名の学生が学んでいます。

伊藤 ^{かいと}海さん (平成30年度入学生)

僕は伊藤海です。3月に青峰学園高等部を卒業しました。卒業する前に僕はお母さんや担任の先生と、カレッジでどんなことをやりたいか考えました。

○音楽を聴いたり歌ったり、好きな音楽を自分で選んでもっと広く楽しみたい。

○『映画研究会』に入って色々な映画を研究したい (今はジブリ、ディズニーのDVDが好きで結構詳しいです)

○季節を感じる活動 (両親や Dr.の希望)

4月7日の入学式では、新しい先生に名前を呼ばれてすぐに返事、家族や参加した病棟スタッフに拍手してもらいました。自分で選んだ歌『やさしさに包まれたなら』もみんなで歌って楽しい日になりました。テラスで写真も撮りました。

カレッジの時間を楽しみにしています。



佐藤 ^{あせい}亜聖さん (平成30年度入学生)

はじめまして、佐藤亜聖と申します。30年度の入学とのことですが、2月から授業が始まっています。ただ今のところ月1回。少々物足りなさを感じています。

申し遅れましたが、東京都立多摩桜の丘学園高等部を平成28年3月に卒業しました。マカトンサイン、指文字、筆談、トーキングエイドを駆使して会話します。また、ゆっくり大きな声であれば聞き取ることもできます。

訪問カレッジで、どのような自分づくりができるか楽しみです。



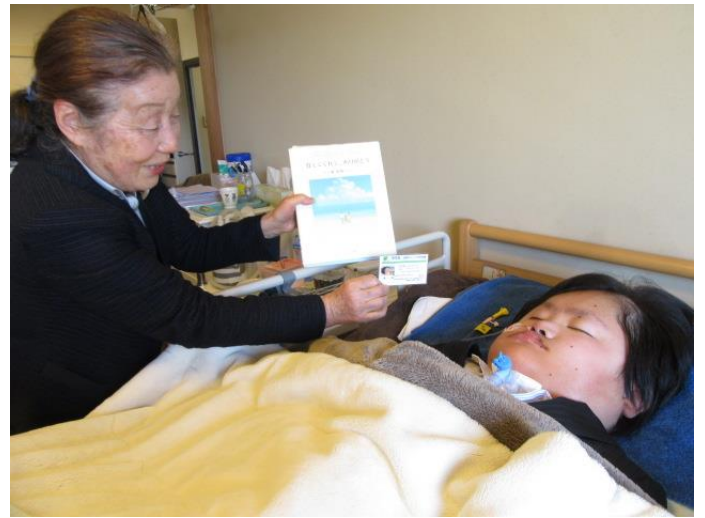
たかひろ
森 岳大さん（平成30年度入学生）

3月に都立志村学園を卒業し、4月20日、飯野先生、志村学園の元担任の先生に囲まれて入学式を行いました。入学式といういつもと違う場面にも関わらず、落ち着いてすっきりとした表情で笑顔を見せたり、話しかけに答えたりできました。飯野先生からお祝いの言葉や学生証を受け取り、新しい学習の場が始まることを意識しました。苦手なことはあまりしたくないけど、ちょっぴりチャレンジしつつ、楽しめること増やしていきます。



アディティア アルファロ ピンタンさん（平成30年度入学生）

3月に都立志村学園を卒業し、4月19日、飯野先生、志村学園の元担任の先生方に囲まれて入学式を行いました。ピシッとスーツで決め、飯野先生から学生証を受け取り、歌とともに春らしい二色の布の動きで起こる風を受け、お祝いのひとときを過ごしました。右目を時々開けて、活動をチェックするのが僕流のやり方です。今後、身体をたくさん動かし、ちょっと苦手な感触の学習等も頑張りたいです。



学びの風景

友田海さん（平成27年度入学生）

海さんの活動は病室のベッドから車いすに移乗して始まりです。元気のない時はベッドサイドです。さあ！今日は何からしましょうか？海さんに選んでもらいます。ハサミでチョキチョキ、カラーコップ積み、洗濯ばさみ、磁石遊び、描画、シール貼り、音楽、楽器鳴らし等々やりたいことがいろいろあるのですが、ここ1～2年、見て操作することがしにくくなってきた様子です。でも、訪問カレッジの時間を楽しんで、笑顔を見せてくれます。「できた！」の時には笑顔で拍手。「肩や背中をタッピングして！」と要求です。在学中に親しんできた歌を聴くことも好きで、特に「にじ」は大好きです。最近新しく好

きになった歌は「ゾウバナナ」（「うたのパレット」に収録）です。バチを持って太鼓打ちもがんばっていました。

海さんは病棟のアイドル。ファンの看護師さんがいっぱいです。海さんの笑顔に皆さん嬉しそうです。



「重度障害者・生涯学習ネットワーク」設立

重い障害のある方々も、心豊かな生活の実現のために、「大学に行きたい!」「もっと勉強したい!」などの「学び」を希求しています。生涯にわたり学び続けたいという夢や願いに応えるために、私たちは、「カレッジ」等の名称を冠した学びの機会と場を創ってきました。活動を拡充していくことが必要であると考え、平成29年12月付けで5団体によるネットワークを設立しました。

①「訪問カレッジ@希林館」

NPO 法人地域ケアさぼーと研究所代表 飯野順子

②「訪問大学おおきなき」

おおきなき代表 相澤純一

③「ひまわり Home College」

NPO 法人ひまわり Project Team 代表 藤原千里

④「訪問療育いるか」

NPO 法人かすみ草 いるか代表 加藤はる江

⑤「i.porte (あいぽると)」

NPO 法人あいけあ 代表 岡安玲

め、「特別支援総合プロジェクト特命チーム」を設置するとともに、平成29年度から生涯学習政策局に「障害者学習支援推進室」を新設しました。そして、「誰もが必要な時に学ぶことのできる環境を整備し、生涯学習社会を実現するとともに、共生社会の実現に寄与するため、学校卒業後の障害者の学びに係る現状と課題を分析し、その推進方策について検討を行う」ために有識者会議を設置し、第1回が3月20日に開催されました。

4月12日午前、私どもの事務所に文部科学省障害者学習支援推進室の室長と室員のお二人がいらして、重い障害のある方の生涯学習について意見交換を行いました。

私どもが行なっている生涯学習「訪問カレッジ」の5年間の実践は、「学ぶことは、生きること」であり、障害の有無や重軽を問わず、人生を豊かにする意味のあることという点を、ご理解いただきました。

今後、この有識者会議にてお話しする機会をいただくことになりました。

学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議の設置について

文部科学省は、「平成26年の障害者権利条約の批准（障害者の生涯学習の確保が規定）や平成28年4月の障害者差別解消法の施行、平成29年4月の文部科学大臣メッセージ（特別支援教育の生涯学習化に向けて）を契機とする取組等も踏まえ、学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を維持・開発・伸長し、共生社会の実現に向けた取組を推進することが急務である。」として、文部科学省内の体制を確立するた



「賛助会員」の募集

1 賛助会員の年会費は

- ・個人 一口 3,000円
- ・団体・法人一口 10,000円 です。(何口でも構いません)

2 ご賛同いただける場合は、振込用紙をご利用いただき、郵便振替口座にお振り込み下さい。

3 「訪問カレッジ通信『やまびこ』」を年2回発行し、お届けします。

※会費は、フォーラム、文化フェスタ、通信の印刷・送料に充てさせていただきます。

賛助会員数 個人63名 団体4 (H30.5.1 現在)

【振替口座】

口座名 トクヒ) チイケアサポートケンキュウショ
口座番号 00110-2-616037